

新たな運営ビジョン策定に向けた検討

1. 北区飛鳥山博物館の運営ビジョン

1) これまでの運営ビジョン

① 平成 17 年（2005）策定「北区飛鳥山博物館のあり方」

- ・開館以来の利用実態を踏まえた運営ビジョン

ミッション 「知のバザール～モノ・コト・ヒトの出会いの場」の実現

博物館を「知のバザール（市場）」と位置づけ、モノ（資料）・コト（情報）・ヒト（区民を中心とする全ての利用者）が出会い交流する場となるよう、多種多様化するニーズに応え、生涯学習活動を強力にサポートし、活気に満ちた知的交流の場として、人びとから望まれる博物館となることを目指したもの。

活動方針 6つの「こうかん」の具現化

- a 好感：心地よい環境を整え、モノ・コト・ヒトの出会いの場となります。
- b 交換：知識や体験をともに得て、ともに分かち合います。
- c 交歓：知識を媒介に発見・感動・楽しさ・喜びをともに分かち合います。
- d 交感：感性を広げ、地域の環境・風土と積極的に関わっていきます。
- e 巷間：身近な生活や日常性のなかにある歴史・文化をともに考えます。
- f 浩瀚：知識や情報を幅広く集め、知的満足が得られる場とします。

② 平成 26 年（2014）策定「北区飛鳥山博物館のあるべき姿」

- ・「あり方」策定以後の社会状況を踏まえた、新たな博物館の運営ビジョン

ミッション 「人々が共感しあえる博物館」の実現

「共感」をキーワードとして、知る喜びにあふれる、どんな人にも優しい、ぬくもりある博物館となることを目指したもの。

活動方針 「博物館活動を通じた知的感動と共感の分かち合い」の具現化

- a 共感の場としての博物館
- b 共感の場を生み出す博学連携
- c 共感が広がる地域と博物館
- d 人と人が共感しあえる博物館
- e 五感を通じた共感の実現

2) 新たな運営ビジョン策定に向けて

- ・上記②「あるべき姿」を設定してから、10年が経過
本格的な少子高齢社会の到来、コロナ禍を経た社会の変容、職員（学芸員）の段階的退職等を踏まえた、新たな運営ビジョンの策定が必要

【今後のスケジュール】

令和 5 年度～令和 7 年度 検討

令和 7 年度末 新たな運営ビジョンの策定

3) 新たな運営ビジョン案

① ミッション

みんなの“My”^{ミュージアム}博物館ー地域の歴史文化を今と未来に活かすー

博物館業務と文化財保護業務を行う当館独自の運営ビジョン

- ・地域の歴史文化を守り、今と未来に活かすための事業展開を行う。
- ・利用者個人とのかかわりを大切にし、1人1人が「自分の」博物館と思えるような、親しみのある博物館を目指す。

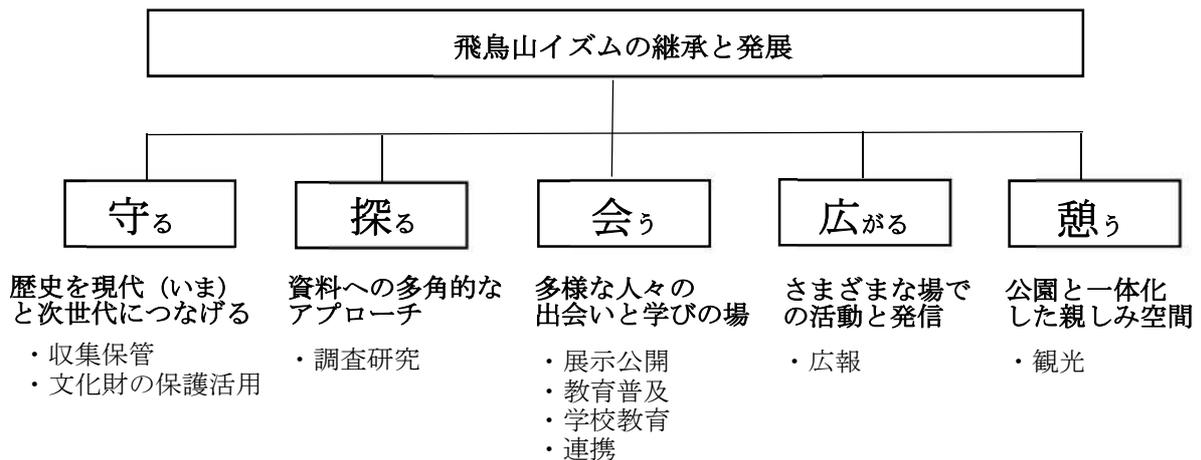
② 運営の柱

「飛鳥山イズム」の継承と発展

※「飛鳥山イズム」とは

開館以来、培われてきた運営姿勢

- ・時代を読み、新しいことに積極的に挑戦するチャレンジ精神
- ・普及事業を重視した博物館活動



| 運営の柱 | | 達成目標 | |
|------|--------------------|----------|-------------------|
| 守る | 歴史を現代（いま）と次世代につなげる | 収集保管 | 地域のクラ |
| | | 文化財の保護活用 | 価値の再発見、文化資源の活用と継承 |
| 探る | 資料への多角的なアプローチ | 調査研究 | 地域情報のシンクタンク |
| 会う | 多様な人々の出会いと学びの場 | 展示公開 | 今に生きる展示 |
| | | 教育普及 | ユニバーサルな事業展開 |
| | | 学校教育 | 好奇心の育成、感性の醸成 |
| | | 連携 | ゆるやかなコミュニティの構築 |
| 広がる | さまざまな場での活動と発信 | 広報活動 | 時代に即したネットワーク作り |
| 憩う | 公園と一体化した親しむ空間 | 観光 | 地域のブランディング力の向上 |